令和元年度　読谷村村勢要覧

YOMITAN

いちゅい勢
ゆんたんざ

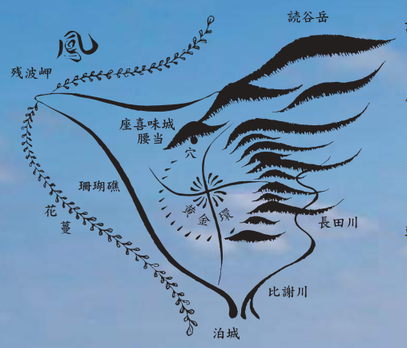
いちゅいゆんたんざ（勢いのある読谷）

沖縄県読谷村

令和元年度　読谷村村勢要覧

本村はサンゴ礁の海と地形から東シナ海に飛び立たんとする「鳳」に象られます。
人と自然を結び、共に生き、その調和力を未来へと繋ぎ、新たな時代へ向けて「飛鳳」を地域将来像とします。

飛　鳳



読谷村は
　飛び立たんとする鳳
風わたる山と川
　花蔓で飾る珊瑚の海
むらの中央部は
　人集い豊穣生む黄金環
戦禍乗り越え
　末永く平和と文化育む

目 次

発刊によせて …… 2
読谷村のあるべき姿 …… 3
イラストガイドマップ …… 4
読谷八景 …… 6
読谷の自然 …… 8
文化財・史跡 …… 10
伝統工芸(花織の郷) …… 12
伝統工芸(ヤチムンの郷) …… 14
伝統工芸(紅型・琉球ガラス) …… 16
新しい文化の創造、発信 …… 17
農　業 …… 18
水産業 …… 19
生活環境 …… 20
教育・生涯学習 …… 22
保健・医療・福祉 …… 24
観　光 …… 26
人物編 …… 28
読谷まつり …… 34
イベント …… 36
スポーツコンベンション …… 38
「黄金の花」咲くむらづくり …… 40
平和行政 …… 42
軍用地跡地利用 …… 43
つながる読谷の道(マップ) …… 44
24の自治会紹介 …… 45
行政・議会 …… 52
統計資料編 …… 54
村木・花木・村花・村魚 …… 58
村　歌

村勢要覧　発刊に寄せて

読谷村長　**石嶺 傳實**

　読谷村は、沖縄本島中部、西海岸に位置し、海に突き出た半島状の地形で、人口約４万１千人の「日本一人口の多い村」であります。東には緑の山並みが連なり、西は東シナ海に面し、南は比謝川を境として、北は景勝地「残波岬」に囲まれた美しい自然と豊かな伝統文化が育まれた村であります。

　かつての琉球王国時代、中国（明）との朝貢貿易が栄え、そこから多くの文化文物が伝来し独特の文化圏を形成して参りました。それらは「読谷山花織」や「ヤチムン」などの伝統工芸や各地の民俗芸能として継承され、読谷の大地に深く根ざしております。今日では文化村よみたんを象徴する織物と焼物でそれぞれ人間国宝が誕生するまでに発展をして参りました。

　さらに読谷村は沖縄文化発展の一翼を担ってきた、琉球三線音楽の始祖として讃えられる「赤犬子」生誕の地としても知られ、歴史と伝統文化の息づく地域であります。

　第二次世界大戦で米軍の上陸地点となり、空と海からの猛爆により焦土と化し、一時期は村域のほとんどが米軍基地として接収されておりました。その後、日本復帰まで米軍統治下に置かれ苦難の時代を過ごすこととなりましたが、生まれ育ったふるさと復興のために、血のにじむ思いで重ねた村民の努力は、一歩一歩着実に実を結び、今日の発展を見たのであります。

　そして現在読谷村は、「ゆたさある風水　優る肝心　咲き誇る文化ど　想い合ち」をむらのあるべき姿として、村民とともに協働のむらづくりに取り組んでいるところであります。ここに読谷村の全体的な概要や将来構想を取りまとめ村勢要覧を発刊いたしました。皆様方に本村の姿を理解していただく資料になれば幸いに存じます。

読谷村のあるべき姿

基本理念

村民の平和で幸せな暮らしを願い、読谷村が読谷村らしくあるために、これまでのむらづくりの基本としてきた日本国憲法の理念を遵守し、読谷村ゆたさむらビジョンの基本理念を次のように設定します。

【いちゅいゆんたんざ（（勢いのある読谷））・創造・協働・感動】

【平和・環境】【文化・健康】【自立・共生】の理念を結び、村民自らが創造し、互いに協働し、そして、多くの潤いと喜びを享受し、感動できるむらづくりをとおして、さらに勢い増す読谷村を目指します。

基本目標

ゆたさある風水（フンシ）　優る肝心（マサ チムグクル）

咲き誇る文化ど（サ チ フク ハナ ドゥ）　想い合ち（ウム アワ）

ゆたさある風水（フンシ）：素晴らしい環境

サンゴ礁の海、緑濃い森林、そこから発する河川という恵まれた自然、この自然に抱かれた暮らしや活動の場という「素晴らしい環境」を表します。

優る肝心（マサ チムグクル）：優しく秀でた心根

争いのない平和な社会、地域福祉や男女共同等の共に生きる社会に向けて、教育や生涯学習、自治活動、社会貢献等をとおして育まれる「優しく秀でた心根」を表します。

咲き誇る文化ど（サ チ フク ハナ ドゥ）：活力ある社会

旺盛な芸能文化、独特な伝統工芸、魅力ある農漁商工、活発な観光・交流等が花開く「活力ある社会」を表し、「ど（ドゥ）」と添えて前二句共々目標となります。

想い合ち（ウム アワ）：心一つに

ゆたさある風水（フンシ）、優る肝心（マサ チムグクル）、咲き誇る文化ど（サ チ フク ハナ ドゥ）、の三句を目標にして「心一つに」（して行こう）と結びます。

読谷村章

「よ」と「み」をつなぎ村民の協力と羽形は村の発展を表し、外円は村民の融和、団結の形で、囲まれた空白はその豊かさと村勢の発展を象徴する。（昭和51年12月24日制定）

いちゅいゆんたんざ

鳳の形をした読谷村。琉球王朝大交易時代の影響により、独自の文化・伝統工芸・名所史跡が今の暮らしに結びついています。

読谷八景

渡具知ビーチ

幻想的なサンセットや、海の透明度の高さから、
地域の人に親しまれているビーチです。

残波岬

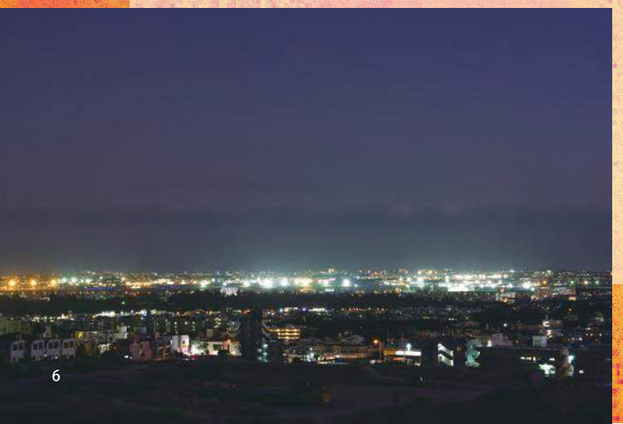
紺碧の空と海に白亜の灯台がそびえ立つ読谷村が誇る
景勝地。憩いの場として公園も整備されています。

サトウキビ畑

海岸沿いはサトウキビ畑が広がり、沖縄の原風景を満喫できます。「さとうきび畑」の歌碑も建立されており、この地から平和の祈りを発信しています。

大木からの夜景

赤犬子展望広場予定地から見える景色。
村内をはじめ本島中南部までを一望できます。



ヤチムンの里

軍用地の跡地利用としてヤチムンの邑（むら）構想が生まれ、現在は約 20 の工房がこの地からヤチムンを生み出しています。

電照菊

読谷村は、県の拠点産地に認定されるほど小菊の生産が盛ん。冬の時期には村内各地で電照された畑の風景が楽しめます。

比謝川河口

嘉手納町との間を流れる沖縄本島最大の流域面積を持つ河川。
現在はカヤックなどで自然や風景を楽しむ人が増えています。

世界遺産

座喜味城跡

護佐丸によって築かれた曲線が美しい城跡。
一番高いところからは読谷村の全域を眺めることができます。

読谷の自然

River

山と海を結ぶ、清らかな流れ

読谷には長浜川や長田川上流域、比謝川河口など自然の豊かな場所が残っています。心豊かで潤いのある生活をおくるために、豊かな自然環境の保全や創出は不可欠です。身近な自然とふれあい、親しむ豊かな自然環境を次の世代にまで引き継ぐことが、私たちの大きな使命です。

長浜川

Ocean

沖縄本島中南部のオアシス ゆっくりと足を止めて触れてみたい読谷の自然

産卵するアカウミガメ

ザトウクジラ（写真：沖縄タイムス提供）

サンゴの海、緑の山々、マングローブの自生する川、大自然の中で息づく様々な生き物たち、私たちの命もその自然の中で生かされています。過去もそして次の世代も。

青く澄んだ恵みの海

読谷村の海岸は、砂地や崖地など改変されていない自然海岸が多く見られます。このため残波岬のような潮風が強い場所では、アダン群落やテリハクサトベラ群落などの海岸植生の発達が良好です。また崖地の堅い岩盤の割れ目などにはオキナワマツバボタンやナレムグラなど独特な植物が生えています。

海岸近くでは波にけずられてできるノッチやキノコ岩が見られ、潮がひいてできる干瀬や潮だまりには、サンゴ類やタカラガイの仲間、クマノミなどの海の生き物が住んでいます。時には沖にザトウクジラやイルカ類が回遊してくることもあります。

Mountain

読谷からはじまる やんばるの森

読谷村の北東部は、ヤンバル（沖縄島北部地域）に広く分布する名護層から成り、そこに形成されている土壌が「国頭マージ」です。この土壌は沖縄島北部の大部分に広がっており、読谷村はその南限地となっています。

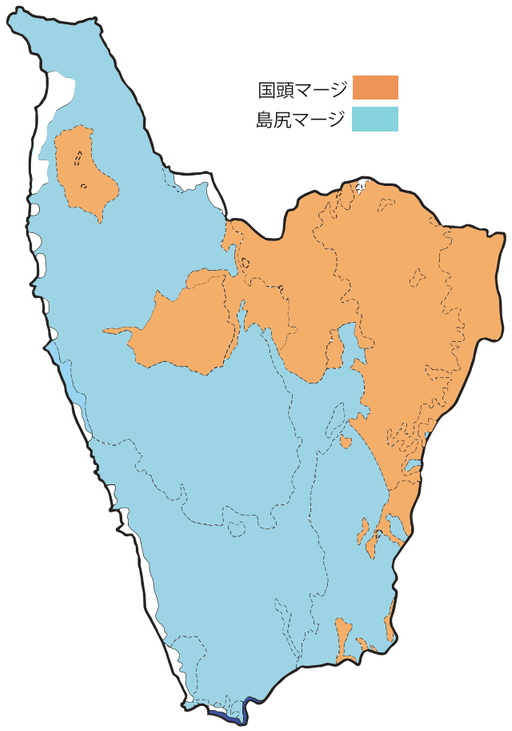
ここには樹冠がモコモコとした森林景観をなすイタジイ林が広がり、その中には大きなドングリが特徴的なオキナワウラジロガシの他、アデクやサザンカ、コバンモチなどが生育しています。また、こうしたまとまった常緑広葉樹林にはカラスバト（天然記念物）や南限的に生息するアマミヤマガラなどを見ることができます。

アマミヤマガラ

カラスバト

リュウキュウハグロトンボ

オキナワウラジロガシ



南部の森 そこに息づく自然

ツ　ミ

アマミアラカシ

オオゴマダラ

アオタテハモドキ

読谷村北西部から南部の大部分には琉球石灰岩が分布し、この地域には石灰岩の風化土壌である「島尻マージ」が形成されています。島尻マージは沖縄島南部で広く見られる土壌です。

このような地域ではタブノキやヤブニッケイ、クスノハガシワ、クスノハカエデ、アマミアラカシなどの生育する森林植生が見られます。村内にはメジロやヒヨドリ、コゲラ、ツミなどの留鳥が生息し、爬虫類ではハブやキノボリトカゲなどが生息します。

文化財・史跡

世界遺産

座喜味城跡ユンタンザミュージアム

1975年開館の読谷村立歴史民俗資料館、1990年開館の読谷村立美術館が統合され、2018年にリニューアルオープンした施設。座喜味城跡の歴史や、村内の自然環境を紹介する展示等が新しく加わり、読谷村の歴史、自然、戦前・戦後の暮らしについて実物や模型、写真などで紹介し、歴史資料や美術品など6万点近くが収蔵されています。

学ぶ 感じる 体験
Learn Feel Experience

人間国宝の陶芸家、金城次郎氏の作品展示

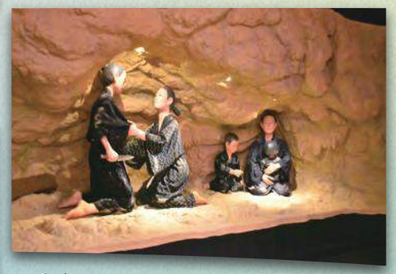
座喜味城跡の石積みパズル

読谷村および県内作家の収蔵品を展示

村内の遺跡と出土遺物の展示

亀甲墓のジオラマで、死後の世界を体験

戦前・戦後の暮らしの中で使っていた道具



チビチリガマでの様子を再現したジオラマ

読谷の遺跡

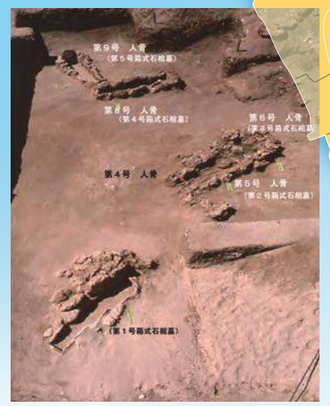
1 吹出原遺跡

海岸から離れた見晴らしの良い標高約70mの高台にあり、約3000年前（縄文時代後期相当期）と、約800年前（グスク時代）の生活跡が見つかりました。

2 喜名古窯跡

1670年頃に造られた窯です。発掘調査の結果、道路になっていた地面の下から3つの窯跡と物原（ものはら）（失敗した作品の捨て場）が見つかりました。

3 木綿原遺跡



約2200年前の遺跡で、九州弥生時代の墓とよく似た箱式石棺墓（はこしきせっかんぼ）が７基発見されました。九州各地のリーダーらが好んで身に着けた腕輪やその材料となるゴホウラやイモガイ、九州産の黒曜石や土器などが見つかり、当時沖縄と九州をつなぐ「貝の道」ルートの存在がわかりました。

1978（昭和53）年11月15日に国指定史跡に認定されました。

4 大湾アガリヌウガン遺跡

11～13世紀のグスク時代初期の遺跡です。比謝川支流の長田川沿いの険しい崖の上にあります。発掘調査で、建物や柵の跡などが見つかりました。

座喜味城跡

読谷山按司護佐丸によって1416年（1422年の説もある）に築かれたと言われています。護佐丸は築城家としても知られ、城壁は３種類の積み方でとても頑丈に造られています。また、2つの城門にはクサビ石が使われるなど特徴的な技法も見られます。

日本復帰の1972（昭和47）年に国指定史跡となり、2000（平成12）年12月２日には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつとして世界遺産に登録されました。

伝統工芸

花織の郷

伝統が育む可憐な花を織る

読谷山花織の歴史

14 世紀後半、琉球の大交易時代に東南アジアから伝わったとされる読谷山花織は、細かな点と線の幾何学模様で可憐な花を織り出しています。世界をまたにかけて繰り広げられた交易の成果として、不思議な魅力に包まれる花織、まさに海のシルクロードを渡ってきたのです。しかし、明治期にその技術は一時途絶えてしまいました。村に残る花織のウッチャキやお年寄りのかすかな記憶を手がかりに、與那嶺貞さんは自らの織物理論を駆使し、多くの試行錯誤の中から1964年見事に復興に成功しました。その後、1969 年花織愛好会を設立、1975年沖縄県指定無形文化財に指定、1976 年読谷山花織事業協同組合設立、同年 6月、通産大臣指定の伝統的工芸品となり、そして1999年「読谷山花織」が国の重要無形文化財に指定され、その保持者として與那嶺貞さんが「人間国宝」に認定されました。

特徴と技法

読谷山花織は、紋織の一種で浮織です。白、赤、黄、緑等の糸で織り出されている紋様は花のように美しく情熱の織物として知られています。花織の技法は、花綜絖（はなそうこう）の織り方と手で差し込みながら織る手花（縫取織）とが絣を併用した織物で、それは、沖縄では一番古く、紋織の発祥の地とされています。

着尺

花柄

織り

花柄はジンバナ（銭花）、カジマヤー（風車）、オージバナ（扇花）の3つの基本花とする30種余の幾何学模様で織り、これに絣や縞、格子の加わった模様となっています。

ジンバナ【銭花】
お金をかたどった紋様。裕福になりますようにとの願いを込めて。

カジマヤーバナ【風車花】
97歳になると風車を配るという習慣から、長寿祈願に使用されます。

オージバナ【扇花】
末広がりの扇型の紋様は、子孫繁栄の象徴。子宝祈願に最適です。

帯地

絹素材の糸を使い、花糸を生かして手刺繍のように模様を作っているのが特徴的な織物です。

読谷山ミンサー コースターづくり体験（グーシ花のコースター）

国の指定する伝統的工芸品のきめ細やかな作業や熟練された技術を身近に体験する事ができます。好きな模様を選び、コースターを織り、完成品はお持ち帰り頂けます。

花織を暮らしに

かりゆしウェア

ミンサー織り半幅帯

ネクタイ

ミンサー織り細幅帯

ストラップ

テーブルセンター

テーブルセンターミンサー織り

マース（塩）ストラップ（沖縄の塩）

かりーちきやぴら（3 種類の紋様）

「もうかりマース」ジンバナ

「あやかりマース」カジマヤーバナ

「さずかりマース」オージバナ

コースター

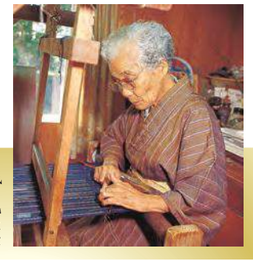
財布・印鑑入れ
メガネケース

伝統証紙

染め

可憐な花柄は、フクギやヤマモモの黄色、ティカチやグールの茶色、緑色は琉球藍と黄色染料の重ね染め、草木染を用いて表わします。深みのある紺の地は琉球藍で染められています。染めは、染材を煎じたもので何回も繰り返し染め、独特な色相を出します。

フクギ



人間国宝・名誉村民
與那嶺（よなみね） 貞（さだ）氏
1909年 1月20日 生
2003年 1月30日 没

読谷村伝統工芸センター（読谷山花織事業協同組合）
TEL 098-958-4674

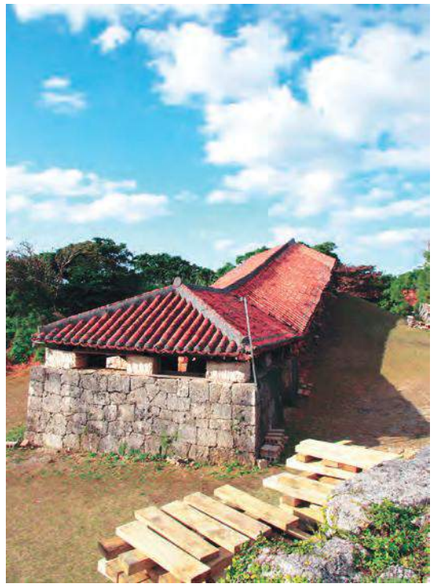
伝統工芸

ヤチムンの郷

かつて古窯「喜名焼」があった読谷。琉球王朝時代に王府の命により各地の陶工は那覇の壺屋に集められ、喜名焼は途絶えてしまいました 。しかし、1972 年の金城次郎氏の招致と、米軍不発弾処理場撤去闘争の中から、軍用地の跡地利用として「ヤチムンの邑（むら）」構想が生まれました。1978 年の軍用地の返還に伴い４人の陶芸家が、沖縄の伝統的なヤチムンのあり方を求めて共同登り窯を造るなど、本格的な窯場づくりを始め、1980 年、読谷山焼の初窯出しが実現しました。その後、そこで修行を積んだ陶工４人が独立し、読谷山焼北窯として新たな展開を繰り広げています。現在では、「ヤチムンの里」を中心に村内各地に68の工房があり、県内有数のヤチムンの産地として多くの作品を産み出していいます。

現代の名工 新垣榮用氏

1997年に読谷村に窯元を構えました。1991年に通産大臣指定伝統工芸士に認定され、1996年には労働大臣表彰「現代の名工」にも認定を受けております。



読谷山焼共同登り窯

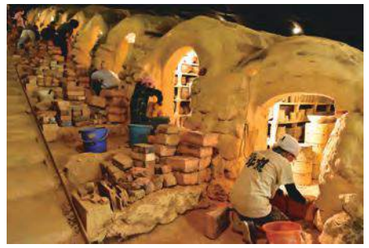
火入れの様子

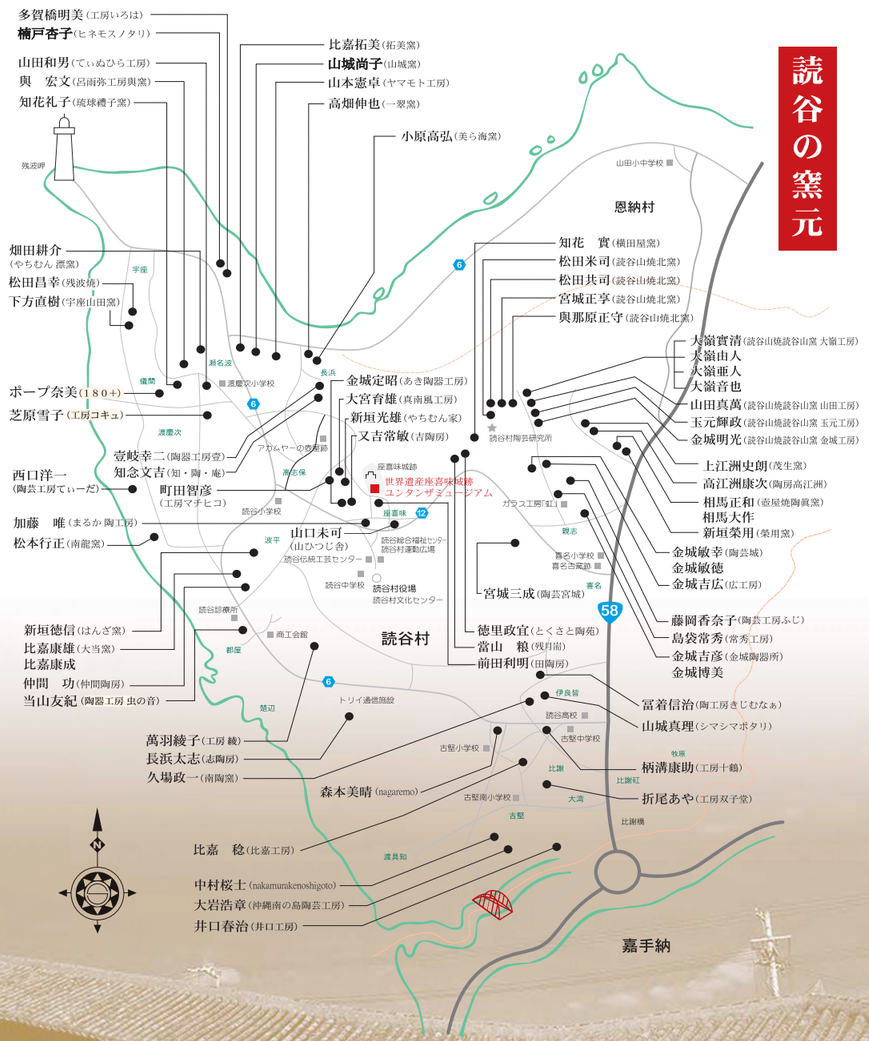
登り窯の火入れは経験をもとに薪をくべ、火力を調整し、ヤチムンを焼きます。県内最大級13連房の登り窯を擁する北窯は年に４回、登り窯による火入れを行っており、ガスや電気窯とは焼き具合が異なる、味のあるヤチムンを作り続けています。

人間国宝・名誉村民
金城 次郎（きんじょう じろう）氏

1911年12月3日 生 2004年12月24日 没

1985年４月、国の重要無形文化財「琉球陶器」の保持者である人間国宝として認定を受け、名実ともに日本を代表する陶芸界の巨匠と認められました。卓越した技量と素朴でおおらかな人柄は、その作品とともに誰からも親しまれ、愛されています。1989年８月「名誉村民」となりました。





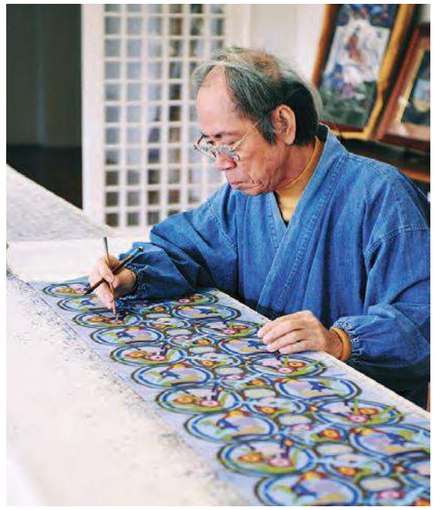
伝統工芸

紅型

人間国宝・名誉村民

玉那覇 有公氏

1996年 国指定重要無形文化財「紅型」技術保持者（人間国宝）に認定



紅型は、琉球王国時代に生み出された沖縄を代表する伝統的な染色技法のひとつです。

紅型で1996年に国指定重要無形文化財「紅型」技術保持者（人間国宝）に認定された玉那覇有公氏が、2000年に東シナ海が一望できる瀬名波の地に紅型工房を構え、首里工房と併せて意欲的な創作活動を展開しています。

玉那覇 有公紅型工房

伝統工芸

琉球ガラス

現代の名工

稲嶺盛吉氏

現在読谷村内には、「泡ガラス」で有名な稲嶺盛吉氏の工房のほかにガラス工房が6箇所あり、新たな産地が形成されつつあります。稲嶺氏の泡ガラスは、再生ガラスを素材に火の温度とガラスの調合の微妙な操作によって生じる気泡を、手早く精妙に処理し、作品化している技法が特徴です。

稲嶺氏は那覇市寄宮の生まれ。1998年「宙吹きガラス工房」を設立。1994年「現代の名工」として認定を受け、琉球ガラス草創期から宙吹き技法と素材の再生ガラスにこだわり、生業として心魂を打ち込んできました。

裏手彩色 木版画 名嘉睦稔（なかぼくねん）

Wood Block Prints Art

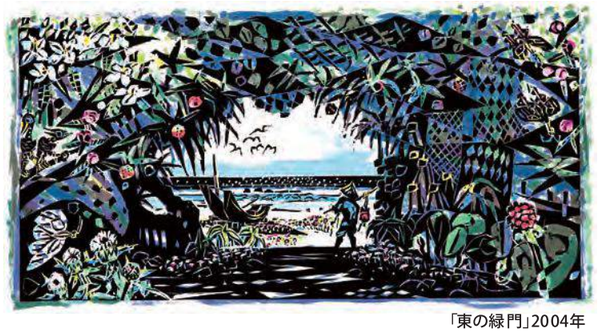
読谷村渡具知のアトリエにて

1953年沖縄県伊是名島に生まれ、イラストレーターとして表現活動をスタート。現在、版画歴30年におよぶ。裏手彩色の技法により2300点余（2020年現在）の作品を世に送り出している。1999年、沖縄郵政創業125周年郵便切手の原画制作。2000年、九州・沖縄サミット広報用絵 葉書の原画制作。2008年には、「国際サンゴ礁年2008」イベントポスターの作品を提供。2013年「地球温暖化防止とサンゴ礁保全に関する国際会議（2013年）」ポスターに作品起用（環境省）

**わたしの絵は、ほとんどが読谷の地で生まれました。
わたしにとって重要な場所であることは言うまでもありません。
広い空と風の走りが良いこの地は、海からも山からも多くの
インスピレーションを運んできます。これからも読谷の地で
生まれてくる絵を、わたしは寿ぐつもりでいます。**

画家 名嘉睦稔

「鳳」1996年



「東の緑門」2004年

Music

鳳の形をした読谷村
芸能、文化、お土産品、陶芸、海と、沢山のお勧めがありますが
この地に生まれ育ててもらった私たち。
Kiroro の曲が沢山ここ読谷から生まれ羽ばたいていきました。
この地で Kiroro を感じてもらいながら読谷の魅力を堪能してください！

玉城千春（たましろちはる）：Vocal　金城綾乃（きんじょうあやの）：Piano

プロフィール

1995年結成。高校時代放課後の音楽室で千春がオリジナル曲をアカペラで歌っていたところに、綾乃が伴奏をつけて遊んでいたのが結成のきっかけ。1998年1月21日に「長い間」でメジャーデビュー。ノンタイアップにも関わらず、ジワジワと楽曲が全国に浸透し、ミリオンヒット。ピュアな楽曲と素朴なキャラクターで一躍国民的アーティストとなった。以後「未来へ」「Best Friend」など誰もが口ずさめるヒット曲多数。現在、2人共に3人の子の母親として、沖縄で育児をしながら緩やかに音楽活動中。

農業

長浜ダム

想い合ち（ウム アワ）　次代につなぐ　ゆんたんざ農業

本村の農業は、花卉、甘しょ、さとうきび、野菜、畜産等で構成され、粗生産額では花卉が最も高い生産高を上げており、野菜等の園芸作物と共に農業機械施設（ビニールハウス・平張りハウス）、農作業機械（ニンジン収穫機等）の導入を図り、計画的な生産体制を整えてきました。

基幹作物であるさとうきびについては、収穫機械の更新導入を計画的に図ることで、収穫作業受託等による作業労力の低減が進み、作付面積の減少に歯止めがかかりつつあり、甘しょとの連作体系も確立されています。

畜産については、和牛の市場価値の高騰から子牛繁殖農家が増加傾向にあり、養豚については、農家は減少傾向にあり、飼料の確保、衛生的な給仕体制の確立等が求められています。また、採卵鶏、山羊、養蜂等も営まれており、山羊についてはかずらを飼料として利用するなど甘しょとの複合経営もみられます。

ハーベスターによるさとうきびの収穫

読谷村産ニンジン（拠点産地認定 平成30年）

平張防風施設　小菊（拠点産地認定 平成14年）

本村では、農業生産基盤がほぼ整いつつある現状において、農業の主役である生産者の高齢化や離農等が進んでいます。

今後は、認定農業者や認定新規就農者の育成、地域の農業の設計図となる「人・農地プラン」の実践等により地域の担い手の位置付けを明確化し、農業経営基盤の強化に努めてまいります。

地域と様々な業種が連携し「産業をつくる」、生産される農産物やそこから派生される物の付加価値を高めることで「様々な人が集う豊かな地域をつくる」、農地が作り出す読谷らしい風景、社会的価値としてのグリーンインフラを活かし「風土をつくる」、「想い合ち　次代につなぐゆんたんざ農業」の確立に取り組んでまいります。

読谷村特産の紅イモ
甘しょ（拠点産地認定 平成16年）

ゆんた市場

畜産まつり

自然を生かした農業は、かけがえのない“水資源”から

長浜ダム
（県営かんがい排水事業水利施設）
位置：沖縄県読谷村長浜地区
河川名：長浜川（取水地）
総貯水量：160 万立方メートル
受益地区：8 地区 389ha
ファームポンド（タンク）：
7.000 立方メートル

水産業

未来を展望する漁業の村づくりへ

本村漁業は、沿岸漁業が主体で、水揚げは2015年度からは年間200トンを超え、その約60%が定置網漁業によるものです。定置網漁業は、6月から10月にかけて約70%を水揚げします。冬場の供給不足を解消しようと定置網での漁獲物の畜養を行い、水産物の安定供給に努めています。

近年のリゾート・海洋レジャー等の需要に対応するため、ダイビングやガラスボート等の観光漁業の振興、さらに定置網漁を利用した体験漁業にも取り組み、2013年度は年間1000人以上が体験しました。

2017年にはセリ市場、鮮魚販売店、食堂が一体となった水産物展示販売等施設が整備され、直売店の売上や来客数も大幅に増加し、村内のみならず、県外、国外の観光客も足を運ぶ開かれた漁港として賑わいを見せております。今後は新たな鮮度保持施設の整備により、更なる漁獲量の増加及び水産物の安定供給が期待されます。

水産物展示販売等施設

魚食普及活動の取り組み

読谷漁協では青壮年部による魚食普及を目的とした「みなとピクニック」や「おさかなフェスタ」などが開催されており、食育活動にも取り組んでいます。その実績が認められ、2019年には沖縄県青年・女性漁業者交流大会にてみなとピクニックの事例が沖縄県知事賞を受賞。また、第14回食育推進全国大会では事業者部門にて消費・安全局長賞を受賞いたしました。

みなとピクニック

新たな大型定置網の設置により鮮魚の安定供給が可能になりました。

第11回
商工会特産品フェア
「ありん・くりん市」
特産品コンテスト
最優秀賞受賞

読谷村では地産地消を重視しており、地元の食材を使用した製品の開発を積極的に行っています。水産物を使用した製品としては「海人自慢のもずく丼」などを村、読谷村漁業協同組合、食品に関わる企業、団体の方々と連携して開発しました。もずく丼は2008年に開催された第11回商工会特産品フェア「ありん・くりん市」特産品コンテストで最優秀賞に輝きました。

定置網体験
県内最大 !!

ジンベエ ザメと泳ごう
体長4メートル、体重1トンのジンベエザメと泳げる

ジンベエザメは読谷近海を回遊して定置網に捕獲されることから、その資源を生かし、大型の生け簀を設置してコバルトブルーの海で巨大なジンベエザメの生態を観察しながら一緒に泳ぐことができます。

生活環境 村民の輪で住みよい住環境

安全で快適な住みよいむらづくり、それは潤いのある生活環境と、そこに住む人と人との調和から生まれるものです。住みよいむらづくりは、行政と村民が一体となった協力体制と、知恵を出し合い創造されるものでなければなりません。

本村では、これまで村全域に及ぶ上水道の整備と、生活道路・公園などの計画的な整備を進めてきました。交通安全・防犯対策については、地域の皆様方のご協力を得て、共同で犯罪・事故防止に積極的に取り組んでいます。犯罪・事故防止は、防犯灯や道路反射鏡などの施設整備とともに、日頃の一人ひとりの自覚と備えが需要です。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災以降、防災対策には自助、共助、公助の精神がいかに重要かを学びました。そのうち、まずは自分の身は自分で守る「自助」、地域や身近にいる人どうしが助け合う「共助」こそが、災害による被害を少なくする大きなき力となります。「共助」の一つである自主防災組織は、「自分たちの地域は自分たちで守るという自覚と、地域共同体としての連帯感でもって、自主的に結成する組織です。現在村内には長浜区自主防災会、渡具知区自主防災会、大添区自主防災会、都屋区自主防災会、楚辺区自主防災会の5つの自主防災組織があります。

隣保協同の精神に基づいて結成された自主防災組織の活動は、災害時の被害を最小化する「減災」の重要な役割を担います。読谷村では、地域における自主防災組織への設立支援や、地域主導の防災訓練の強化を行うとともに、「公助」にあたる村や防災関係機関は、地域特性や被害想定等を踏まえた総合防災訓練等に取り組みます。

平成21年4月より、公共交通機関の空白を解消するため、コミュニティバス「鳳バス」を運行しています。
料金：大人 200円
小人、65歳以上の高齢者、障がい者は100円

読谷村 行政区域界図

平成26年4月1日から新たな行政区域が設定されました。

沿道緑化

比謝川行政事務組合（1994年設立）により嘉手納町と共同で整備されたごみ・粗大ごみ処理施設

比謝川行政事務組合ニライ消防本部読谷消防署

都市公園

座喜味城跡公園

残波岬公園

街区公園

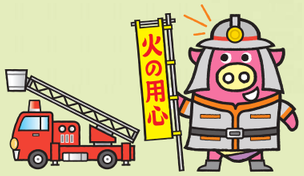
セーラの森公園

泊城公園

ユーバンタ公園

ユンタンザパークゴルフ場
平成31年4月に、ユンタンザパークゴルフ場が完成しました。
村民の体力増進、地域コミュニケーションの活性化、高齢者の生きがいづくりに寄与します。

防災訓練より



教育 生涯 学習

読谷村の教育

本村の学校教育機関は、幼稚園５園、小学校５校、中学校２校、それに県立高等学校が設置されており、約 4,300 人余りの幼児・児童・生徒が在籍しております。

学校教育においては、めまぐるしく変化する現代、そして未来を生きる子どもたちが、社会との関わりの中で知識を活用し、夢の実現のために自分で考えて行動する心豊かな人材に成長していくことができるよう、人格形成の基礎が培われる幼児期からの主体性・対話的で深い学びの実践を通して、個々の可能性を最大限に発揮できるように支援していきます。

また、本村には歴史的な背景の中で醸成されてきた文化や、世界遺産に登録された座喜味城跡等の村民共有の財産があります。その価値を再認識し、保存・継承・発展させることが大切です。

さらに、中国(明)との貿易を開き、その後の大交易時代の先駆者となった泰期や、多くの海外移民を輩出するなどの進取の精神に富んだ先人の気質を受け継ぎ、国際社会をたくましく生き抜く子どもたちを含むべく国際理解教育を積極的に推進しています。

命の樹 (読谷中学校)

はばたけ！子どもたちの限りない夢。

古堅中学校地区陸上

読谷中学校 沖縄県中学校総合文化祭

Creative

幼・小・中学校において、スポーツ面、文化面においても様々な場面で活躍しています。読谷中学校、古堅中学校共に地区陸上で優勝するなど常に上位の実力を発揮しています。渡慶次小学校音楽部は、県内はもとより全国コンテストでも活躍しています。

海外ホームステイ派遣事業

International

毎年、オーストラリアのブリスベンへ派遣し、ホストファミリーや現地学校での体験を通して、多様な文化に触れさせ国際性に富んだ人材を育成しています。

渡慶次小学校マーチングバンド

受け継ごう読谷(ふるさと)の 心

Tradition

伝統文化の継承と発展を図る場として、「読谷まつり」の持つ意義は大きいものがあります。子ども達は、参加することにより自己のアイデンティティーを確かめ、明日の読谷文化の担い手として意識を高めています。

児童・生徒による集団演技

(仮称) 川回る広場

トレーニング室

読谷村立図書館

本村には、各地域に多くの伝統文化が息づいています。村民が地域に誇りと愛着を持てるよう、読谷まつりや伝統芸能祭または村外でのイベントに参加するなど担い手育成を行い、継承活動に取り組んでいます。

読谷村文化センターでは、社会教育活動や生涯学習の場として、毎年数多くの講座・講習会・公演を開催し、子どもからお年寄りまで幅広い世代が、学び・交流、伝統文化の継承や文化芸術鑑賞等の活動をしています。今後も内容の充実を図り、多くの村民が利用しやすい環境づくりを目指します。

また、読谷村立図書館では村民の多様な学習ニーズに応えるべく、図書資料の充実を図っています。

生涯スポーツの振興については、本村の体育協会を中心に様々なスポーツ大会が開催され、地域活動の活性化と村民の生きがいづくりに寄与しています。特に本村は全国的にもソフトボールのメッカとして知られており、村おこしの一翼を担っています。

このように文化活動、社会教育活動、生涯学習活動、生涯スポーツ活動を通して、読谷村の未来を担う子どもたちの豊かな人間性と健やかな成長を目指し、地域と行政が一体となった健全育成活動にも取り組んでいます。

わんぱく広場

ジュニアリーダー研修

赤犬子子ども三線・箏・太鼓クラブ

少年の主張大会

小学生陸上競技大会

民俗芸能祭

保健 医療 福祉

健康 それはかけがえのない財産

健康は、豊かな日常生活を過ごすためのかけがえのない財産です。本村では「自らの健康は自ら守る」を合言葉に、健康まつり等を開催し健康意識の高揚に努めています。また、生活習慣病を防ぐための啓発活動を各地域において担っていただく「健康づくりサポーター」の養成を平成23年度からスタートしたほか、糖尿病や腎不全等が重症化しないよう保健師や栄養士による健康相談にも力を入れています。

老人福祉については、老人福祉センター「セーラ苑」を拠点とした老人クラブ活動や、各自治公民館で「ゆいまーる共生事業」、シルバー人材センターでの就業を通した健康・生きがいづくりを展開しています。また、地域包括支援センターでは高齢者の日常生活支援として、保健・福祉・医療・介護などさまざまな面から総合的に支える活動を行っています。

老人福祉センター セーラ苑

平成31年度 健康づくりサポーター

読谷村診療所

読谷村診療所は、1978年（昭和53年）に医療機関として戦前戦後を通じて初めて開所しました。以来、村民の医療拠点として定着し重要な役割を果たしています。医師2名の診療体制を整えることで、高齢化社会に向けて在宅医療及び予防医療の推進を図っております。

また、医療及び介護のリハビリテーション体制を整えるとことで、日常生活の自立を援助するサービスの充実を図っています。令和2年度から、短時間型通所サービスによる介護保険のリハビリテーションを行っています。

健康増進センター

2008年4月、村民の健康保持及び増進のための施設として健康増進センターがオープンしました。同施設は専門家の指導のもとでトレーニングを行うことができ、生活習慣病の予防・改善に寄与しています。2019年 4月から民間事業者へ指定管理となり、民間活力を活かした健康づくりの拠点として幅広い年代の村民に利用されています。

大きく広がる 福祉の輪

読谷村総合福祉センター（読谷村社会福祉協議会）

お年寄りや子ども、障がいのある人もない人も、みんなが住み慣れた地域で、生き活きと暮らせる村こそ私たちの大きな目標です。

そのためには、村民の一人ひとりがお互いを大切にする「福祉の心」を持ち、実践することが求められています。それはまた、時を越えて受け継がれるべき大切なものであります。

福祉活動の中心的な役割を担う社会福祉協議会、民生委員・児童委員ほか、多数のボランティアの方々が日常の福祉活動に頑張っています。

また、地域活動支援センター「みつ葉」は、障がい者の活動の拠点とし、障がい者支援活動を展開しています。

子育て支援センター・読谷村保育所

シルバー人材センター

地域活動支援センター みつ葉

世代をこえた 思いやりユイマール

村民が健康でやすらぎのある暮らしを築くため、きめ細かい多様な福祉サービスを進めています。それには各世代が一丸となって「共に生き、共に支えあう地域共生型社会づくり」が大切です。福祉のむらのキーワードは「ユイマールの心」です。

福祉納涼まつり

ファミサポフェスタ

まだまだ若い！読老連運動会

よみたん福祉運動会

H O S P I T A L I T Y

本村には豊かな自然、多様な歴史・文化が息づき受け継がれています。
その魅力を存分に活用した観光コンテンツを目的とし、毎年多くの観光客が訪れます。

心を癒すエメラルドグリーンの海が続く西海岸沿いには、複数の大型リゾートホテルが立地し、ビーチやゴルフ場などが隣接しています。また、大河ドラマの撮影地にもなった場所は体験滞在交流施設「むら咲むら」となり、沖縄文化を体験できる観光施設として人気となっています。

西海岸は漁場としても豊かであり、読谷村漁業協同組合が大型定置網を設置。観光客向けの定置網漁業体験が人気となっています。さらに村魚でもあるジンベエザメを沖合の生け簀で飼育しており、ジンベエザメと泳げるダイビングやグラスボートなども大きな注目を集めています。

修学旅行生などの観光客を民家に受け入れ、沖縄の文化や暮らしを体験する「民泊」が盛んに行われており、毎年約23,000人の観光客が読谷村で、生活体験型の民家宿泊プログラムを楽しんでいます。

むら咲むら

ロイヤルホテル沖縄残波岬

ホテル日航アリビラ

ジ・ウザテラス

グランディスタイル沖縄読谷ホテル＆リゾート

星のや沖縄

残波ビーチ

アクアグレイス・チャペル

民泊

観光

世界遺産 座喜味城跡

残波岬 いこいの広場

ジンベエと泳ごう！
都屋漁港

残波岬

道の駅 喜名番所

渡具知ビーチ

ニライビーチ

ヤチムンの里